

特集

平成25年度

青森県立高等学校入学者選抜後期選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課

総合学校教育センター

青森県教育委員会は、平成25年度青森県立高等学校入学者選抜後期選抜学力検査を3月14日(木)に実施し、2,047人が受検した。

学力検査の実施教科は、国語、数学、英語で、各教科とも検査時間は40分、配点は100点満点である。前期選抜とは異なり、国語、英語で放送による検査問題は実施していない。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表(後期)に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、国語は1.4点、数学は1.7点、英語は0.9点下回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「平成25年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表(後期)

得点区分	国語		数学		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%
100	0	0.0	16	0.8	1	0.0
90～99	16	0.8	117	5.7	118	5.8
80～89	187	9.1	210	10.3	285	13.9
70～79	424	20.7	289	14.1	286	14.0
60～69	456	22.3	280	13.7	204	10.0
50～59	400	19.5	302	14.8	216	10.6
40～49	272	13.3	251	12.3	214	10.5
30～39	161	7.9	217	10.6	227	11.1
20～29	93	4.5	165	8.1	223	10.9
10～19	31	1.5	121	5.9	197	9.6
0～9	7	0.3	79	3.9	76	3.7
0(再掲)	1	0.0	4	0.2	1	0.0
受検者数	2,047	100.0	2,047	100.0	2,047	100.0
平均点	58.8	/	54.3	/	52.6	/
標準偏差	17.1		24.2		25.8	
最高点	96		100		100	
最低点	0		0		0	
前年度平均点	60.2		56.0		53.5	

*得点一覧表の各教科の値(%)は、全受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

国 語（後期）

①は、漢字の問題である。(1)の読字では、イ「踏破」を「とっぱ」、ウ「奔走」を「しっそう」と読んだ誤答が多く、正答率はいずれも約4割であった。書字では、カ「編曲」を「変曲」、ケ「臨む」を「望む」とするなど、同じ読み方の別の漢字を書いた誤答が多く、正答率は低かった。(2)は、同音異義語を選ぶ問題である。エ「一堂（に会する）」の「ドウ」は「同」を選んだ誤答が多く、正答率は約3割であったが、他の問題の正答率は高かった。

②は、学級での話し合いという日常の言語活動の場面において、話し合いの流れや話し手の意図をとらえる力や、話し合った内容をまとめて適切に表現する力をみる問題である。(1)の、前後の文脈から発言の意味をとらえる問題は、正答率が約9割と高かった。(2)は、話し合いの流れをとらえ、流れに関係のない内容の発言を見つける問題である。正答率は約6割であり、「初めの三字」という条件を満たしていない誤答が多かった。(3)ア、イは、話し合いの要旨をとらえ、適切に表現する力をみる問題である。アの正答率は約2割、イの正答率は約5割で、個々の活動の特徴はとらえられているが、共通する特徴をとらえることは難しかったものと思われる。

③は、三宮麻由子（さんのみやまゆこ）の『いのちの音が聞こえる』からの出題である。(1)は、修飾・被修飾の関係についての問題であり、正答率は約7割であった。動作を修飾する副詞の働きについて、よく理解しているものと思われる。(2)、(3)は、前後の文脈から、空欄に適する表現を判断する問題であり、正答率はいずれも6割を上回った。(2)は、「私に聞こえるのは」という表現との矛盾に気付かず、「まったく聞こえない」という選択肢を選んだ誤答が多かった。(3)は、「滴る」に続く言葉として、「音」や「雪」を書いた誤答が多かった。(4)は、詩の表現と文章の内容を対応させる問題であり、正答率は約6割であった。詩の中の「ひのき」と文章中の「ヒノキ」というキーワードをうまく結び付けられなかったと思われる誤答が見受けられた。(5)は、「音世界の再現」という言葉を、別の表現や対照的な表現に言いかえる問題であり、正答率は約7割であった。(6)の、与えられた条件に即して自分の考えを紹介文としてまとめる問題は、正答率が4割を下回り、意見や体験だけを書いた誤答や、無答が多かった。日ごろから自分の考えを話したり書いたりすることが大切である。

④は、桜井邦朋（さくらいくにとも）の『日本語は本当に「非論理的」か 物理学者による日本語論』からの出題である。(1)は、文章中の「断固とした表現に当たろう」の助動詞「う」の働き（「推量」）を選ぶ問題である。正答率は約5割であり、誤答としては、「断定」を選んだものが多かった。(2)は、文章の内容を理解し、二つの空欄に入る対義語を選ぶ問題であるが、「意志」と「論理」、「客観」と「意志」のように、対義関係になっていない誤答が多かった。(3)アは、「思う」の意味についての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(3)イは、文章から取り出した情報を活用して適切に書く力をみる問題である。正解につながるキーワードを見出すことはできているが、空欄に適する表現に直していない誤答が多かった。情報を取り出すだけでなく、それを適切な形で表現する力が大切である。(4)の、文章の内容を理解する力をみる問題は、文章全体の内容をとらえられていないと思われる誤答が多く、正答率は約5割であった。(5)は、文章に示される因果関係を見出し、与えられた条件に即して書く問題であるが、正答率は2割を下回った。

⑤は、『無名草子（むみょうぞうし）』からの出題である。(1)は、古文の中の語句の意味をとらえる力をみる問題であるが、正答率は約2割と低かった。(2)は、同じものを示す語句を見つける問題であるが、余分な語句を付けた誤答が多く、正答率は約4割であった。(3)は、文章全体の内容を理解する力をみる問題で、正答率は約7割であった。

国語では、前期と同様、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の展開に即して内容を理解する力や、条件に従って適切に表現する力、文章の構成や表現の仕方に着目して内容をとらえ、自分の考えを適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 国語（後期）

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
①	ア 1 イ 1 ウ 1 エ 1 オ 1	読 字 常用漢字を読む。	掲載	83.8	③	(1)	4	文の成分の対応を理解する。	73.2
			踏破	40.6		(2)	4	文章の展開に即して内容をとらえる。	66.2
			奔走	42.9		(3)	4	文章の構成や展開を正確にとらえ、内容を理解する。	67.5
			蔽か	57.9		(4)	4	文章の構成や展開を正確にとらえ、内容を理解する。	61.3
			刷る	76.2		ア	4	表現の仕方に注意して読む。	68.1
	イ	4	文章に表れているものの方や考え方を理解する。	73.2					
	カ 1 キ 1 ク 1 ケ 1 コ 1	書 字 学年別漢字配当表の漢字を書く。	編曲	40.7	(5)	8	目的に応じて自分の考えを深めて書く。	35.1	
			登録	64.8	④	(1)	4	単語の類別（助動詞の働き）を理解する。	54.1
			熟練	72.6		(2)	4	文脈の中における語句の意味をとらえる。	22.7
			臨む	46.9		ア	4	文章の展開に即して内容をまとめる。	21.5
			逆らう	81.2		イ	4	文章の展開に即して内容をとらえる。	49.5
	歎声	99.3	(4)	4		文章に表れているものの方や考え方を理解してまとめる。	14.6		
	ア 1 イ 1 ウ 1 エ 1 オ 1	同音異義語 同音異義語の適切な漢字を選ぶ。	希少	85.1	(5)	4	古文の中の語句の意味をとらえる。	21.9	
			治める	79.8	(2)	4	文章の展開に即して内容をとらえる。	39.9	
一堂			30.1	⑤	(3)	4	文章に表れているものの方や考え方を理解する。	68.8	
紛失			80.7						
②	(1)	3	班で話し合う 話し手の意図を考える。	93.5					
	(2)	3	話し合いの内容や方向をとらえる。	57.4					
	(3)	ア	3	話題の内容をまとめる。	22.1				
	イ	8	話し合いの展開に即して内容をまとめる。	48.0					

数 学（後期）

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)は全体的に正答率が高く、知識・技能は定着しているものと思われる。(2)の正答率も約8割と高く、等式変形についての知識は定着しているものと思われる。(3)の因数分解の問題は、正答率が約6割であった。誤答としては「 $x(y^2 - 4)$ 」が多かった。(4)は、二次方程式の解の公式を用いて解く問題である。正答率は約7割と高く、解の公式についての知識は定着してきているものと思われる。(5)は、比例に関する問題であり、正答率は5割を下回った。表の数字の並びから答えを推測したと思われる誤答が見受けられた。(6)は、学習指導要領の改訂に伴い、1学年で扱われることとなった「資料の活用」からの出題である。中央値についての知識をみる問題であるが、正答率は約5割であった。(7)は、直線の傾きと平行の関係についての知識や技能をみる問題であり、正答率は5割を下回った。(8)は、相似な立体の体積比を問う問題である。計算の過程で 3^3 を9、 2^3 を6としてしまったと思われる誤答が多く、正答率は約2割と低かった。

②は、見通しをもって思考・判断し、数学的に処理する力や、論理的に考察して表現する力をみる問題である。(1)は、引いたカードに書かれた数に応じて正六角形上を動く二つの点が、同じ位置に止まる確率を求める問題であり、正答率は約4割であった。同じ位置に止まる場合が複数あることを見逃せなかったものと思われる。(2)ア、イは、連立方程式を利用して割合を求める問題である。正答率はアが4割を下回り、イは約3割であった。(3)は、円周角の定理についての問題であり、正答率は約2割であった。うまく補助線を引くことができなかったものと思われる。(4)アの、三角形の合同を証明する問題は、正答率が約4割であり、(4)イ①の、四角形が平行四辺形になる条件について証明する問題の正答率は約2割であった。平行線や錯角の性質を利用し、筋道を立てて証明する力が大切である。

③は、関数 $y = ax^2$ と一次関数のグラフをもとに座標や直線の式を求める力や、図形について関数の知識や技能を用いて解決する力をみる問題である。(1)は、グラフ上の点の座標を求める問題であり、正答率は約8割と高かった。(2)は、2点の座標から直線の式を求める問題であり、正答率は約6割であった。(3)は、三平方の定理を用いて解く問題であり、正答率は約2割と低く、無答も多かった。求めたい点の座標を文字に置きかえて解決する方法を見出せなかったものと思われる。(4)は、平行線を用いた等積変形の考えをもとに、数学的に処理する問題である。正答率は約2割であり、無答も多かった。座標平面における図形とグラフとの関連についての理解が大切である。

④は、「自動車の速さとブレーキをかけてから進む距離の関係」から読み取った情報や、基礎的・基本的な知識を総合的に活用し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、正答率が約6割であった。(2)アは、比例定数を求める問題である。誤答としては、「 $a = 10$ 」が多く、 $1.6 = a \times 16$ の計算を間違えたものと思われる。(2)イの正答率は約3割であった。 y が x の2乗に比例するという事を見出せなかったものと思われる。(2)ウは、二次方程式を用いて解く問題であるが、正答率は約1割であり、無答も多かった。

数学では、前期と同様、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけではなく、その意味をしっかりと理解した上で、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 数 学 (後期)

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)					
1	ア	3	数式	1	(1)	資料の活用	確率	41.7				
	イ	3			正負の整数の計算 (加減)	99.3	(2)	ア	4	数と式	連立方程式の利用	35.6
	ウ	4			正負の整数の計算 (除法)	88.2	イ	2			33.7	
	エ	4			正負の整数の計算 (累乗)	87.6	2	(3)	4	図形	円周角の定理	19.3
	オ	4			多項式の計算	90.0		ア	5		三角形の合同の証明	39.2
	(2)	4			平方根の計算	83.9	イ	Ⓐ	2		平行四辺形になる条件	39.9
	(3)	4			等式変形	76.8					Ⓑ	2
	(4)	4			因数分解	60.1	3	(1)	4	関数	関数 $y = ax^2$ のグラフと座標	
	(4)	4	二次方程式		70.4	(2)		4	直線の式		57.4	
	(5)	4	関数		比例	45.5		(3)	4		座標平面上の2点間の距離	16.9
	(6)	4	資料の活用		代表値と散らばり	49.4		(4)	4		直線の式と等積変形	19.3
	(7)	4	関数		座標と傾き	49.0	4	(1)	3	比例の式	55.4	
(8)	4	図形	相似な図形の体積	21.5	ア	4		関数	関数 $y = ax^2$ の比例定数	55.3		
				イ					4	関数 $y = ax^2$ の値の変化	29.0	
				ウ	4	2次方程式		関数と二次方程式	9.1			

英 語（後期）

①は、対話が成立するように空欄に適切な英語を書く問題である。(1)、(2)、(5)はいずれも正答率が約6割であった。(3)、(4)は、綴りの誤りによる誤答が多かった。

②は、英作文の問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語句を並べかえる問題である。ア、ウの正答率は比較的高く、「Please」で始まる命令文、相手を勧誘する「Shall we ~?」の用法は定着しているものと思われる。エは、「I want you to bring something like.」や「I want something to bring you like.」という誤答が多く、正答率は約2割であった。to不定詞「want to (～したい)」と接触節についての知識の定着が十分ではないものと思われる。(2)は、与えられた資料の内容と合うように適切な英語を書く問題である。空欄の前にある「from one」とのつながりをうまくとらえることができなかつたと思われる誤答が多く、正答率は約2割と低かつた。(3)は、日本文を英文に直す問題である。1は、「Thank you for 名詞」の用法、2は、「have a good time (楽しく過ごす)」という基本的な表現が十分に定着していないと思われる誤答が多く、正答率は1～2割であった。

③は、日本に留学している生徒と友人の対話を完成させる問題である。(1)アは、対話の展開を正確に読み取った上で適切な英文を書く問題であり、「How are you?」や「Can I help you?」のように「I'm OK, but please help me after dinner.」につながる適切な疑問文を作ることができなかつたと思われる誤答、イ、ウは、疑問詞「what」の後の主語や動詞を正しく使えなかつたと思われる誤答が多く、いずれも正答率は低かつた。(2)の、対話の意味が通るように適切な英文を選ぶ問題の正答率が比較的高いことから、対話の流れは概ねとらえられているものと思われる。

④は、生徒のホームステイ先での出来事を題材とした問題である。(1)の、本文の内容と合う日本文を選ぶ問題の正答率は約5割であった。「誰が、誰に、どのようなことを質問したのか」という流れを正確に読み取ることができなかつたものと思われる。(2)1～3の英問英答の問題は正答率が4～5割であった。(2)3では、質問文にある「swimming with dolphins」を含む英文を本文からそのまま抜き出したと思われる誤答が多かつた。

⑤は、「家族や町の人たちのために三人の生徒が取り組んだこと」についての長文を読んで答える問題である。(1)は、本文の内容と合うように英文を完成させる問題であり、(2)は、前後の英文の流れと合うように適切な英語を入れる問題である。正答率は約7割であり、本文の内容は概ねとらえられているものと思われる。(3)アは、本文の内容と合うように、適切な英語を選んで要約文を完成させる問題である。「… make them popular. (それらを有名にする)」の「make」を、「作る」という意味にとらえたと思われる誤答が多かつた。イは、「三人の生徒が取り組んだこと」を読み取る問題である。誤答は多岐にわたり、本文の内容を読み取ってまとめる力が十分ではないものと思われる。(4)は、下線部の理由を日本語で書く問題である。

「When they heard this」の「they」と「this」が指すものを正確にとらえられなかつたと思われる誤答が多く、無答も多く見受けられた。

英語では、前期と同様、英文の大まかな流れをつかみながら大切な部分を正確に理解する力や、文の構造を理解した上で状況に合わせて適切に書く力を育成することが望まれる。

問題別正答率 英語（後期）

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
1	(1)	ライティング 対話が成立するように、空所に入る適切な英語を書く。	57.2	4	(1)	ライティング 本文の内容と合った日本語を選ぶ。	45.0		
	(2)		65.6		1		45.1		
	(3)		42.2		2		45.7		
	(4)		10.7		3		40.3		
	(5)		56.9		ア		64.8		
2	(1)	ライティング 英文の意味が通るように、語句を並べかえる。 資料に書かれてあることを参考にして、適切な英語を書く。 日本語を英文に直す。	74.4	5	(1)	ライティング 本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切なものを選ぶ。	56.5		
			46.4				イ	61.6	
			67.4				ウ	61.8	
			16.4				エ	61.8	
	(2)		3		18.6		(2)	3	66.2
	(3)		1		12.4		(3)	ア	23.5
			2		23.8			イ	40.0
3	(1)	ライティング 対話を読み、空所に入る適切な表現を英文で書く。 対話を読み、空所に入る適切な英文を選ぶ。	26.8	4	ライティング 本文の内容と合った日本語を選ぶ。 本文の内容についての質問に英文で答える。	45.0			
			11.7			1	45.1		
			27.9			2	45.7		
	66.3		3			40.3			
	59.4		ア			64.8			
(2)	B	59.4	(4)	イ	56.5				
	C	71.9		ウ	61.6				
						エ	61.8		
						空所に入る適切な英語を選ぶ。	66.2		
						英文の内容と合うように、適切な英語を選んで、英文の要約を完成させる。	23.5		
						下線部の理由を日本語で具体的に書く。	26.4		